

第 38 回土木計画学研究発表会（秋大会）：2008 年 11 月 1 日～3 日（和歌山大学）  
セッション討議内容の記録

セッション名：TFP	
日付：11月1日（土）曜日、セッション時間：13:15～14:45	
司会者名（所属）：谷口綾子（筑波大学）	
討 議 内 容	<p>セッション全体：</p> <p>TFP の効果計測の際に、アンケートの回答値のみで判断するのは疑問である。公共交通利用者に、「あなたが公共交通を使っているのは、TFP を受けたから？」などと直接聞くことも必要である。熊本では、その転換率と、実際の増加率が整合していた。そのような視点を今後導入すべき。</p> <p>&lt;まとめ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>訪問コミュニケーションは効果が大いだが、コストがかさみ、ポスティングは効果サイズは小さいが大規模実施可能である</li> <li>都市部の増車時、新規購入時にカーシェアリングの利用意向が高い</li> <li>TFP の動機付けとして、主婦にはメタボ対策、男性通勤者には仕事後の一杯といった異なる内容が効果的である</li> </ul> <p>TFP を誰に、どのようなコミュニケーションで、何を動機付けとして、どういうタイミングで実施するのが効果的であるか、知見を積み重ねることが出来たと考えられる。</p>
	<p>(7) 須永大介（計量計画研究所）：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コストはどのくらいか？ 訪問は1万円/人、ポスティングは千円/人</li> <li>・転入者の実施人数は？ 300-400名</li> <li>・ここで提示されている効果は回答率を加味している？ していない。回答者のみの効果。</li> <li>・効果計測として、費用対効果と、参加者数×CO2削減量などの視点が必要</li> </ul>
	<p>(8) 太田裕之（東京工業大学）：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・群間比較は行わなかったのか？ CS 実施できずに群間比較はできなかった。</li> <li>・これまでのCS促進プロジェクトも、TFP というわけではないが同様の取り組みしている。それとのちがいは？ コミュニケーション・アンケートをしている点が異なると考えられる。</li> <li>・マーケティング調査的に、たとえばマンションをターゲットにするなど、チョイス層に到達する工夫をしたのか？ 今回は、さまざまな居住形態全てを対象とした。</li> <li>・アンケートの名義はどうしたのか？ 東工大名義で、環境省委託、と記載。</li> <li>・どんな人が自動車を手放すのか？ 都市部の、買い換え・2台目購入のタイミングがCS加入意向強い。</li> <li>・事業所は、どのくらいの規模であったか？ 社有車のコストは聞いているか？ 聞いていない。</li> </ul>
	<p>(9) 小林昌季（(財)駐車場整備推進機構）：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エコポイントや商品券など、インセンティブ施策との連携はあったのか？ 今回はない。</li> <li>・属性別の動機付けについて、「10点」という点数に意味はあるのか？ 特にない。1点でもよい。</li> <li>・行動プランは実施しなかったのか？ 今回は実施していない。</li> <li>・P&amp;R と絡めた MM の動きはあるのか？ 金沢市で MM はどういう位置づけ？ 通勤者対象プロジェクトで P&amp;R と絡めた動きある。市は、通勤者主体のプロジェクト進める予定。</li> <li>・</li> </ul>
	<p>・</p>